

## これは、画期的なバッハのシリーズだ

合唱指揮者として新国立劇場の公演を支え、オペラの裏方のように見られたりもする三澤洋史さんであるが、彼が本当に情熱を注ぎ、また卓越しているのは、バッハの指揮である。三澤さんが「東京バロック・スコラーズ」を結成し、研究と実践の結合を視野に置いたコンサート・シリーズを始めたことは、日本のバッハ演奏にとって、画期的な意味をもっていると思う。

私は、「バッハとパロディ」と題されたその第2回を聴いたが、専門性の高い切り口によるプログラミングの妙もさることながら、合唱の示した作品への分け入りと共感、高揚感はまれに見るもので、バッハの喜びを、満喫することができた。こんなバッハ演奏こそ、ぜひ育って欲しい。

＜国立音楽大学教授 日本音楽学会会長 礒山 雅＞

## 若き日のバッハ

有名なシュヴァイツァー博士は、本日演奏するバッハのミュールハウゼン時代(22歳頃)のカンタータを絶賛し、こう語っています。

「バッハが初期のカンタータで、あのように巨匠的な境地に到達した芸術的富を、後年突然放棄したということがどうしてあり得ようか？ バッハの200のカンタータを、初期の方法で書かれた100のカンタータと取り替えても惜しくはない。」

若いからといって未熟さなどはみじんも見せないバッハの作風。それどころか、この時代にしかないほとぼる靈感に満ちた初期の傑作を紹介します。特にカンタータ106番「神の時は最善の時なり」は、僕が最初買ったカンタータのレコードで、僕をバッハの世界に引きずり込んだ思い出の作品。

ここから僕のバッハへの旅が始まったのです。

＜三澤 洋史＞

## 三澤 洋史

### 指揮とお話



国立音楽大学声楽科卒業後、指揮に転向。1984年ベルリン芸術大学指揮科を首席で卒業。

2001年9月からは新国立劇場合唱団指揮者として新国立劇場の全公演に関わっている。1999年より2003年までパイロイト音楽祭にて祝祭合唱団の指導スタッフの一員として活躍。

またバッハには特に深く傾倒しており、「21世紀のバッハ」を追求するために2006年1月「東京バロック・スコラーズ」を立ち上げ、音楽監督に就任。これを核に、21世紀の「今」を生きる、人とのコミュニケーションと活動を広げている。

飯田 みち代



佐々木 昌子



大島 博



大森 一英



## 東京バロック・スコラーズ

### 東京バロック・スコラーズ・アンサンブル

合唱・管弦楽

三澤洋史のもとで「21世紀のバッハ」を追及しようという志を共有する合唱団・管弦楽団。合唱団はオーディションによって選ばれたアマチュア、アンサンブルは一流のプロ奏者からなる。

演奏のみならず、公開レッスンや講演会など、多角的な活動を行っている。

また、バッハを愛好する個人や団体とのネットワークを広げ、バッハ探求のセンターとなることを目指している。



## アンサンブルメンバー

Recorder	高橋 明日香	吉澤 徹			
Oboe	小林 裕				
Fagott	鈴木 一志				
Viola da gamba	櫻井 茂	秋谷 真琴			
Violone	西沢 央子				
1st. Violin	吉岡 麻貴子	石亀 協子	小関 郁	ビルマン 聡平	
2nd. Violin	鈴木 まどか	小関 妙	寺井 馨	渡辺 美徳	
Viola	佐藤 佳子	臼木 麻弥	鈴木 まり奈	中川 玲美子	
	沼田 由恵				
Violoncello	西沢 央子	城戸 春子	津森 奈保子		
Contrabass	櫻井 茂				
Organ	花井 淑				



杉並公会堂  
Suginami Koukaidou

〒167-0043  
東京都杉並区荻 1-23-15  
TEL 03-3220-0401

